ベイエリア再整備の検討状況について

滑川市産業民生部水産観光課

目次

01 – はじめに

02 – 道の駅の現状

03 – 改善したい課題

04 – 基本方針（仮説）

05 – 整備手法の考え方

06 – タラソピア跡地での実証実験について

07 – 想定されるスケジュール

08 – さいごに

01 はじめに

登録から間もなく30年を迎える『道の駅ウェーブパークなめりかわ』
役目を終えたタラソピアの解体や、漁業者による海業の取り組み開始　等々…

節目とともに新たな局面を迎えようとしています

市の将来ビジョン実現に向け、道の駅と漁港の相乗効果を生み出し、更なる価値の向上で
魅力ある地域づくりを行うために、ベイエリアの再整備を検討しています



01 はじめに

滑川ベイエリア＝道の駅＋滑川漁港

道の駅
　タラソピア跡地の利活用を含めた今後の整備方針については未定

滑川漁港
　海業ビジョンを策定し漁業者を中心に取組みを進め始めたところ



01 はじめに

再整備の対象とする施設は、次の6つです。

①タラソピア跡地

②ほたるいかミュージアム

③レストラン光彩

④おみやげマーケット

⑤はまなす公園

⑥滑川漁港エリア

01 はじめに（施設位置関係）



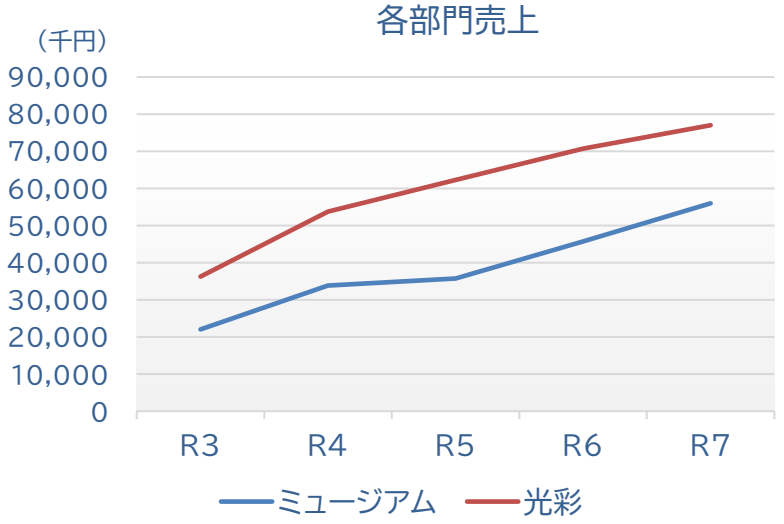
アクセス：〔🚗〕滑川I.C.から約10分、富山駅から約30分　〔🚃〕滑川駅から徒歩約8分

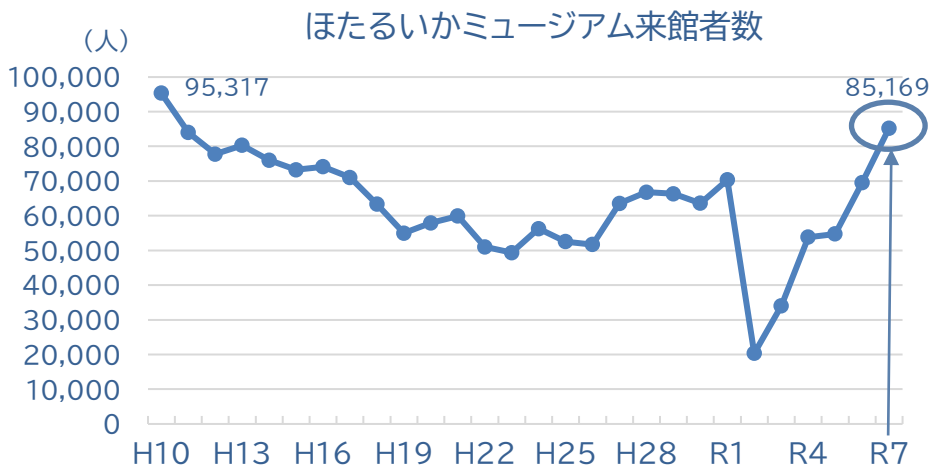
02 道の駅の現状

ほたるいかミュージアムについて

◆平成10年3月オープン
◆年間来訪者数：R7 約35万人（人流データより）
◆30周年記念に向けて一部リニューアルを検討中

◆指定管理者：㈱ウェーブ滑川（第三セクター）
◆コロナ禍以降、売上は順調に回復（増加傾向）
◆年間の指定管理料は約7千万円





※R7はオープン以来、歴代2番目に多い来館者数を記録

02 道の駅の現状



パノラマレストラン光彩

◆ウェーブ滑川が直営

◆営業時間：11時～18時（夜間は予約時のみ）

◆利用客数：約34,000人、売上：約7,700万円



おみやげマーケット

◆3店舗＋市観光協会窓口
みちcafe（直営）、カネツル砂子商店（テナント）、
とやまふるさとセンター（テナント）

◆売上：マーケット棟内全体　約1億円

02 道の駅の現状



タラソピア跡地

◆令和8年4月　解体工事完了

◆面積：約1,100㎡

◆現在はイベントスペースや臨時駐車場として活用



はまなす公園（駅前1号公園）

◆昭和62年4月　都市公園として供用開始

◆面積：約4,000㎡

◆イベント時、限定的に利用

03 改善したい課題

■ほたるいかミュージアム



オフシーズン対策

ホタルイカが展示される3月下旬～5月下旬に年間入館者の約6割が集中します。他の時期は閑散としていることが多く、集客が課題です。



指定管理料の高騰

生体展示が必要な特殊な施設ではあるものの、光熱費の高騰もあり、毎年多額の費用（約7千万円）が掛かっていることから、経費の見直し・削減が必要です。

民間ノウハウを活用した経営による運営の見直しを検討したい

03 改善したい課題

■レストラン光彩



海鮮メニューの不足

滑川漁港に近いレストランですが、取り扱う海鮮が限定的で、一般的に人気の高い海鮮丼等の提供がありません。



景観の活用不足

開放的な富山湾の景観（夕景）と潮風を楽しめるデッキテラスを十分に活用しきれていません。

景観のポテンシャルを最大限に活かし、地元からも愛される飲食店を目指したい

03 改善したい課題

■おみやげマーケット、タラソピア跡地



商業機能の不足

アンケート調査では、物販及び飲食店が少なく、休憩スペースも手狭で混雑するため、拡充を望む意見が多く挙げられました。



素朴なお土産

販売されている商品は、他の店舗でも購入できるものが多く、〝滑川らしさ〟やここでしか買えないといった希少性がありません。



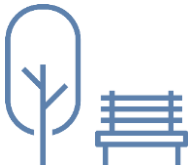
景観の活用不足

道の駅は富山湾と立山連峰の絶景を望む好立地にありますが、上手く活用しきれていません。

商業エリアの拡大及び商品開発による魅力向上を図りたい
海と山の眺望をゆっくりと楽しむスペースを創出したい

03 改善したい課題

■はまなす公園



限定的な利用

整備当初は遊具やトイレがありましたが、老朽化等により撤去されました。現在は、イベント行事等の限定的な利用にとどまります。



人の流れ

公園を囲む樹木が視界を遮り、賑わいが外に伝わりにくい状態となっています。また、水はけの悪さを指摘する意見もあります。

多目的な利用かつ自然と人が集う開放的な空間へリニューアルしたい

03 改善したい課題

■滑川漁港エリア



水産物提供の場の不足

漁港周辺で新鮮な魚を食べたり購入したりする場所がなく、賑わいを生み出せていません。



体験型コンテンツの不足

漁港が観光の目的地になるような施設・環境の整備や取り組みがなされていません。

賑わい創出の一拠点として一体的に価値を高めていきたい

04 基本方針（仮説）

基本方針（仮説）①

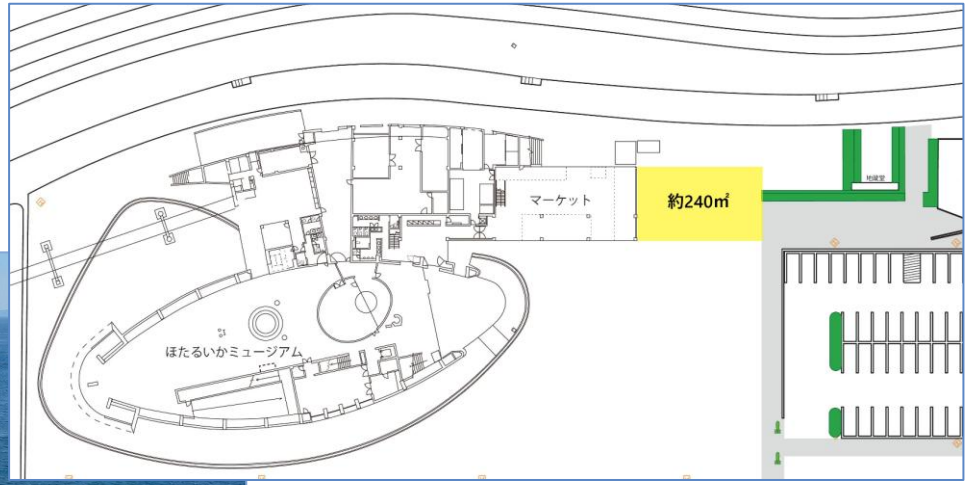
タラソピア跡地を活用した既存施設の機能強化 ⇒ マーケット棟の増改築

利用者満足度	既存テナント部分も含めて一体的にレイアウトを見直し、商業エリア及び休憩スペース等の充実や混雑緩和を図ります。
新たな体験	来訪目的の多様化に寄与し、新規客やリピーターの獲得に繋げます。
景観のフル活用	屋上部分をデッキテラスとして開放することで、海と山の眺望をゆったりと楽しむ空間を創出します。

～参考イメージ～

※商業面積500㎡程度
（増築面積　約240㎡＋既存施設面積　約290㎡）





【増築規模について検討した事項】

以下の5項目のバランスが取れた施設整備を目指すこととする。

①求められる機能と必要となる面積
②駐車場不足への対応
③建設に要するコスト
④運営コスト及びリスクの抑制
⑤集客に繋がる話題性

基本方針（仮説）②

ベイエリアの玄関口となる公園整備

・多目的利用が可能な公園へ

・人が自然と集まる開放的な空間

・滑川駅からの導線（ほたるいかプロムナード）を意識した、シンボル的遊具やテントの設置





参考イメージ

基本方針（仮説）③

▸ほたるいかミュージアム

・ホタルイカ以外の展示強化やVR等の最新技術の更なる導入によるグレードアップ

▸レストラン光彩

・海鮮メニューの強化と景観を活かした店舗へのリニューアル

▸滑川漁港エリア

・海業ビジョンに定める「10年後のありたい姿」に沿った取り組みによる魅力向上

05 整備手法について



前提

整備・運営にあたっては、公民連携手法を前提とします。



手法

事業者が、基本構想段階から参加できる手法による整備を検討します。



資金

整備費用については、民間資金の活用も含めて最適な調達方法を検討します。
運営費用は、事業者側で賄っていける施設を目指します。

06 タラソピア跡地での実証実験について



参考イメージ

トライアル

整備方針が定まるまでの間、仮設コンテナ等を利用した跡地の実証実験(トライアル・サウンディング)も検討しています。

様々なトライアルの中から、整備方針に反映することができるようなアイデアを発掘したいと考えています。

07 想定されるスケジュール

取組項目	R8	R9	R10	R11	R12～
基本構想	⇨				
事業者募集		⇨			
基本設計			⇨		
実施設計				⇨	
増築工事				⇨	
共用開始					⇔

※整備手法・内容によって、スケジュールは前後します。

08 さいごに

将来ビジョン
「笑顔いっぱい 幸せいっぱい 光り輝く 滑川」へ

まだまだ伸びしろがあるエリア
公民連携でアイディアを形に

